

## 平成 14 年度臨時（第 3 回）理事会議事録

日 時 平成 15 年 1 月 25 日（土） 10:30～16:00

場 所 国立代々木競技場 第 2 会議室

出席理事（敬称略、順不同）:

山崎達光（委任：戸田邦司）、井手正敬（委任：戸田邦司）、小田切満寿雄、戸田邦司、松本富士也、小田泰義、栗田栄一郎、高橋順一、岩田直幸（委任：水谷益彦）、栗原博、斉藤威、清水昭、鈴木保夫、富田稔、戸張房子、名取正精（委任：昇隆夫）、浪川宏（委任：富田稔）、平賀威、松田健次郎、三井祥功（委任：中山明）、倭千鶴子、市原恭夫、福田義一、昇隆夫、都築勝利、水谷益彦、中山明、柴田友義、西原敏文、古谷正宏、秋山雄治 以上 31 名、内委任状 6 名

欠席理事：広瀬興郎、岩田行史 以上 2 名

出席監事：石崎忠朗、青淵隆督 以上 2 名

委員長出席：末木創造

### 議事の経過及び結果

（定足数の確認）

理事 33 名、出席者 31 名（内、委任状 6 名）により、寄附行為第 29 条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立。

（議長による開会宣言）

寄附行為第 19 条に基づいて、戸田邦司副会長が議長となり、平成 14 年度臨時（第 3 回）理事会の開会を宣言。

（議事録署名人）

本理事会の議事録署名人としては、議長指名により富田稔、秋山雄治の両理事が任命された。

（戸田副会長挨拶）

スムーズな議事進行にご協力をいただきたいとの挨拶に引き続き、議事進行の時間組みの為、議案事項、報告事項、協議事項の順で進行したいとの議長提案に沿って議事進行することになった。

### < 議案事項 >

#### （1）JSAF 公認セーリング教室上級者コースの公認について

斎藤理事より資料に基づき、JSAF 公認セーリング教室上級者コースの公認について提案があった。佐賀県ヨット連盟会長馬場氏より申請いただいた内容について、

公認審査内規により審査した結果、安全、救助、また施設、参加の条件等実績もありまたその条件も整っているとの報告があり、承認された。

## (2) レーティングファイル使用料徴収について

市原理事より資料に基づき、レーティングファイル使用料徴収について提案があった。現状、RMPプログラムファイルはインターネットで取り出せ、各艇のレーティングデータであるENCファイルはレースごとに連盟よりレースごとに出すことになっている。このRMPファイルの毎年の保守に24万円ほどの経費が必要なところ、連盟の財務状況を考え、平成15年4月より、IMS及びORCクラブレーティングを使用した外洋艇レースにおいて、成績算出時に使用するレーティングデータファイル(ENCファイル、RMSファイル)の使用料(IMS・ORCクラブ全艇のデータファイル)を有料(1レガッタ3,000円)としたいとの説明があった。

徴収方法として、レガッタ(シリーズ1週間以内を基本とし)3000円、1週間を超えるレガッタに関しては6000円を加盟団体経由で、年間計画に基づいて年初計画により支払う。15年度は80レースぐらいが予想されるため総額24万円の収入を見込む。小田専務からの質問の不正コピー等の対策については連盟との契約関係で解決したい、また重量制より団体固定費徴収のほうが良いのではとの提案に対しては、全国レース競技の頻度の格差を考えると無理との判断がとられた。

- 1) ORCクラブの3年制度との整合性を今後至急(施行16年度)1年制度に改めること。(別検討)
- 2) RMP毎年保守費用24万円も納得のいく話ではないので16年度までに検討する。
- 3) 具体的契約条項、ならびにプログラムの保守を行う外洋計測委員会とプログラムの管理を行う連盟レース委員会で手続きの規則を整備する。

以上を条件に承認された。

水谷理事より語彙の使い方に、連盟のレース委員会とレースごとの実行委員会に使われるレース委員会に混同する場合があります用語として統一すべきとの指摘あり。

## <報告事項>

### 1) 平成15・16年度役員選挙開票結果について

末木選挙管理委員長より資料に基づき、平成15・16年度役員開票結果について報告があった。昇理事、中山理事より、

選挙選出方法、について理事会では決めなかったものの、外洋全国理事など定数内立候補であるため投票結果に何の影響が出るわけでは無いが、投票させてみれば(今回は無投票当選とした)各人がどのような投票を得たか判明し、そのほうが良かったのでは

ないかとの意見

評議員の定数がおかしいとの質問、評議員の定数については1名の死亡により122名となったとの事務局の回答。

理事・立候補者への通知などに不備がなかったかとの質問に対し、選挙管理委員会は立候補者への通知は郵送した。次期役員（選挙理事・水域理事）はJSAFホームページへ公表しているとの回答があった。選挙人である評議員には選挙結果を通知すべしとの意見があった。

## 2) 委員会全国会議開催について

秋山理事より資料に基づき、JSAF委員会全国会議開催について報告があった。評議員会開催の前日平成15年3月15日に各委員会の活動状況と計画等報告及び質疑応答の内容を行いたいとの説明があった。JSAFとしての公式会議として参加者へ通知することになった。

## 3) JSAF関係各省庁に対する活動について

富田理事より資料に基づき、日本セーリング連盟の関係各省庁に対する活動について報告があった。海上無線機器と免許制度や小型船FRP廃船処理など主として国土交通省専門委員会への出席などを通じて折衝をしている。小型船舶操縦士制度への対応は、ヨット乗船歴も認められ、具体的には連盟もしくは連盟が認める加盟団体の証書を持って講習なしの更新が認められることになったが、規則としてレース参加の証明と記録に関する規則を完成させないといけない、今後の検討課題であるとの説明があった。昇理事より、東京都でもFRP廃船処理問題は深刻化しているので、連盟として今後も取り組んでいただきたいとの発言があった。

## 4) 本年度12月31日現在のメンバー登録状況

武村事務局長より資料に基づき、平成12月31日現在のメンバー登録状況について報告があった。メンバー登録総合計は11,654名で、メンバー増加にはたいへん厳しいものがあるとの発言があった。秋山理事より、メンバー増加は今後も各水域で促進していただきたいとの依頼があった。また、秋山、清水、富田理事からはメンバー登録の簡略化（ホームページからの登録）JSAFでの直接受付の検討、あまったJ-Sailingのポトシヨウなどでの配布や、JSAFは何をする団体かの宣伝パンフレットの作成によるメンバー外への配布、加入促進も検討しなければならないとの発言、水谷理事からは視点を変えた会員増強のための施策が必要、富田理事より、総務委員会及びプロジェクトチームで早急に検討していくとの発言があった、清水理事からはそのための事業計画と予算を15年度に入れるべきでないかとの発言もあった。

## 5) 平成 14 年度通常(第 3 回)理事会議事録(案)

武村事務局長より資料に基づき、平成 14 年度通常(第 3 回)理事会議事録(案)について報告があった。昇理事から一部訂正していただきたいとの発言があった。

## 6) その他

アマチュア登録アンケートについて

福田理事より、日本体育協会でその寄付行為におけるアマチュア規程について検討が行われ、加盟する各加盟団体(JSAFに來ている)に対しアマチュア規程に関するアンケート調査が來ている、提出期限が2月14日であるため、総務委員会に一任いただきたい、回答内容は現JSAF規定、ISAF規定である Classification Code, 広告コード、JSAF 寄付行為からの抜粋である。了解された。

ORC クラブルール和訳完成について

福田理事より資料に基づき、計測委員会外洋で ORC クラブルール和訳が完成したとの報告があった。適用を平成 15 年 4 月からとする。

スポーツ保険について

平賀理事より、メンバーに推奨している平成 15 年度スポーツ安全保険(通称セーラーズ保険)の保険料が改訂されたとの旨、報告があった。現行の 1,400 円から 1,500 円になる。各加盟団体、特別加盟団体には後日連絡するとの説明があった。

国際競技大会優秀者等表彰関係推薦について

栗原理事より資料に基づき、JOC 国際競技大会優秀者等表彰関係推薦について報告があった。第 14 回アジア競技大会で優勝した飯束潮吹選手を推薦した旨、説明があり了承された。

国民体育大会改革について

昇理事より資料に基づき、国民体育大会改革について報告があった。国体開催予定地は平成 26 年度まで決定及び内定されている。日体協国対委員会より大会規模削減について、おおむね 5 年後にセーリング競技は参加人員 703 名(監督・選手)となり、現行参加人員比で 12% 96 名の削減となるとの旨、説明があった。これを受けて、JSAF 国体委員会として、運営の一層の簡素・効率化を図るように対策に取り組んでいきたいとの発言があった。

## <協議事項>

### (1) 平成 14 年度大会共同主催・公認・後援願いについて

末木レース委員長より資料に基づき、平成 14 年度大会共同主催・公認・後援願いの 4 大会について説明があった。小田専務理事より、議案に提出する事項だが、協

議事項で承認していただきたいとの発言があった。承認された。

## (2) 評議員の変更について

小田専務理事より資料に基づき、日本 470 協会の評議員が幡野文子氏から五味克博氏への変更について説明があった。議案に提出する事項だが、協議事項で承認していただきたいとの発言があった。承認された。

## (3) 12 月末予算管理月報ならびに短期借入金について

鈴木理事より資料に基づき、平成 14 年 12 月末までの予算管理月報の報告があった。一般会計の収入において、加盟団体負担金（メンバー）収入、寄付金が予定より下回っている。支出についても一部委員会経費が予算を上回っている。オリンピック特別会計においては、寄付金収入が予定をかなり下回っている現状から年度末の資金繰りは厳しいとの旨、説明があった。

小田専務理事より資料「平成 14 年度仮払金明細表」に基づき、収支計算書には計上されていない仮払金について報告があった。委員会事業、特にオリンピック特別会計仮払金においては、至急精算処理をしていただきたい。補助金事業は一部概算払い事業もあるが、報告書を提出してからの精算もある都合上、JSAF としても資金繰りが厳しくなるとの発言があった。

国体委員会の研修会事業仮払の内容については、16 万 5 千円については理事会の承認を受けていないとの指摘に対し、昇理事により次回理事会へ書面にて報告する旨、発言があった。

青淵監事より、強化事業戦略と会計とのバランスを考えていただき、工夫と効率化を図り、事業の縮小ができないのかとの発言があった。

鈴木理事より資料に基づき、短期借入金について説明があった。年度内に資金繰りでショートと判断した場合特別積立金を取り崩して対応する旨の提案が有り承認された。

## (4) 平成 15 年度事業および予算について

鈴木理事より資料に基づき、平成 15 年度予算作成方針について説明があった。予算の詳細は委員長会議で検討する。古谷理事、斉藤理事より、理事の活動費（理事会への旅費交通費）等も JSAF として会計上計上し、結果として寄付扱いすべきではないかとの発言があった。水谷理事より、補助事業は、JSAF 自体に自己負担金が捻出できないと助成金ではでないのではないかと、委員会と事業の区分をすべきではないかと、給与規程の整備とともに職員給与の見直しが必要なのではないかと、との質問があった。秋山理事より、JSAF 平成 15 年度予算方針については、理

事会の合意は得られたとの判断をしている。今後は政策的アイデアから収入増を図ることも考えることも必要だとの発言があった。小田専務より、3月評議委員会へは監督官庁用予算書と委員会別予算書(参考資料)の提出をするとの発言があった。理事会として提出された資料「JSAF平成15年度予算作成方針について」に基づいて、15年度予算を作成することで合意された。

平成14年度通常(第3回)理事会議案は、上記の通り議決ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名捺印する。

平成15年 1月 25日

議 長 副 会 長 戸 田 邦 司

議事録署名人 理 事 富 田 稔

議事録署名人 理 事 秋 山 雄 治